

質保証の入口としての入試改革

3つのポイント

先んじて入試を改革している大学を取材する中でわかった、改革を進めるうえで、必ず踏んでおきたいポイントを以下の3つにまとめた。

特にポイント①の「現状把握」は、改革のベースとして最重要。これなくしては②も③も成り立たないので、必ず取り組まれない。

POINT

1 現状を把握する

- ▶ 入学者の「質」と「数」と「構成」が
自学として質保証ができるようなものかどうか
- ▶ 入学後の学生の成績や学び方、卒業後の様子はどうか
- ▶ 受け手である高校生や高校の進路指導の現状はどうか

改革の
ベースとして
最重要

POINT

2 理想と現状のギャップを見る

- ▶ 大学の将来的なビジョンと現状とのギャップを見る
- ▶ 18歳人口減など市場の変化と現状のギャップを見る
- ▶ 入口 (AP)・中身 (CP)・出口 (DP)と
現状の選抜方法のギャップを見る

この
ギャップを
埋めるのが
課題

POINT

3 実現性のあるスケジュールと 実行体制で行う

- ▶ 方針、ビジョン、課題を全教職員で共有し、改革の意識統一
- ▶ 「議論」ではなく、データをもとに「検討」を重ねる
- ▶ 担当組織をつくり、機動性と一貫性を確保する
(執行部直下など)

組織体制
でつまずく
改革は多い

まとめ

質保証の入口としての入試とは？

=自学ならではの学びで伸びる学生の確保 (学生の質・量・構成)
そのための選抜方法、評価法、評価体制の構築

